



あなたも受けよう!

成人したら子宮頸がん検診



◆ お問い合わせ先 ◆ 健康支援課 ☎973-3209

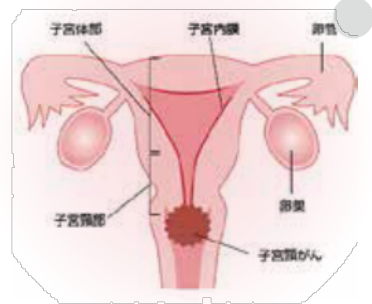
20歳の女性のみなさん

子宮頸がん検診の無料クーポン券の対象です。郵送されていますがご存知ですか？
若い女性に子宮頸がんが増えています。がん = 高齢者の病気ではありません。

子宮頸がんはどんな病気？

子宮の入り口にできるがんで、自覚症状は、ほとんどありません。そのため、かなり進行するまで自分がかかっていることに気づきにくいですが、普通の婦人科の診察で観察や検査がしやすいため、発見されやすいがんです。

	子宮頸がん	子宮体がん
部位	子宮頸部（子宮の入り口）	子宮体部（子宮本体の内側）
発症年齢	主に 30～40代 (20～30代に急増中)	主に 50～60代（更年期～閉経後）
原因	ヒトパピローマウイルス (HPV)	主にホルモンバランスの異常
自覚症状	ほとんどない	早期から不正出血など



原因は女性の8割が一度はかかるありふれたウイルス (HPV)。

性交渉で感染することが知られているウイルスです。HPVのタイプは、150以上。その中の約15種が、がんに関連があります。確実に防ぐ方法は、まだありません。感染を予防するワクチンもありますが、予防効果をもっているのは約15種類の高リスク型HPVのうち2種類。治療効果はありませんので、定期的な検診を受けることが大切です。

調べないと分からない。

HPVに感染してから子宮頸がんを発症するまでの期間は、5～10年といわれます。通常、細胞がHPVに感染しても、身体の免疫力でHPVは排除されてしまいます。感染が長期化すると細胞が変化して「がんの前段階」の状態になりますが、多くは正常な細胞にもどります。一部の人ではがんに進んでいきます。高リスク型HPVに感染してがんになる人は、1000人に1人か2人です。

前がん病変で発見すれば、予防できます。

がんが進むと、不正出血、血液の混じったおりもの、下腹部の痛み等が起こります。進行がんは手術範囲が広がったり、放射線治療や抗がん剤治療が必要になったりと治療が困難になります。がんになる前の段階（前がん病変）で発見すれば、子宮をとらない簡単な手術で完治できますし、その後は妊娠・出産することもできます。また術後後遺症の心配はほとんどありません。



がんになる前に発見。それが最善の予防策です。

20歳以上の女性では、2年に1回、細胞診による子宮頸がん検診の受診が推奨されています。

うるま市では20歳以上の女性を対象に子宮頸がん検診（細胞診）をご案内しています。

恥ずかしいから…とためらわずに、ぜひ検診を受けてくださいね。